

校訓「誠実・剛健」

・高潔・協和」

男女共学で全日制課程と定時制課程がある。学年制の普通科で募集定員は全日制280人、定時制40人。略称は「竜ヶ崎一高（りゅうがさきいちこう）や一高（いちこう）、竜一（りゅういち）」。竜一高（りゅういちこう）と呼ばれる。令和2年4月から附属

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校



茨城県立竜ヶ崎第一高等学校(羽成邦男校長・茨城県龍ヶ崎市平畑248、電話0297-62-2146)は、校訓「誠実・剛健・高潔・協和」のもと、「先取の気風」「文武両道の気風」の精神が継がれる歴史ある伝統校。平成26年度から文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定となり、世界に通用する人材を育成する進学校。

中学(1クラス40名の募集が開校する。

明治33年(1900)4月1日、土浦中学校龍ヶ崎分校として「大統寺」を仮校舎に創立。翌年の34年4月1日に仮校舎を「般若院」に移転する。35年4月1日から茨城県立龍ヶ崎中学校となる。

学制改革の実施で、昭和23年(1948)4月1日から茨城県立龍ヶ崎高等学校に改編。翌年の24年4月1日に校名を現在と同じ「茨城県立竜ヶ崎第一高等学校」に改める。

創立百周年の平成12年(2000)10月21日、「創立100周年記念式典」を挙行。13年3月、「第72回選抜高等学校野球大会(甲子園)」に出場する。22年4月1日から「いばらき版サイエンスハイスクール」の指定となる。26年4月1日からは文部科学省「スーパーサイエンスハイスク

来年・創立120周年

スーパーサイエンスハイスクール指定校

1ル(SSH)の指定となり、さらに今年度は5年間の探究活動の実績が認められ2期目の指定を受ける。

目指す学校像は、「歴史と伝統を誇る重厚な校風の中で、文武両道の精神を継承し、豊かな教養と英知を備え、地域社会をはじめ国際社会に貢献しうる有為な人材の育成に努める」である。

教育方針は「学習習慣を確立させ基礎学力の定着を図る」、「学力の向上を図り学習指導の強化を推進する」、「進路指導を充実させ希望進路の実現に努める」、「基本的な生活習慣の確立と豊かな心の育成に努める」、「体育・スポーツ活動を奨励する」、「国際教育を推進し広い視野を持つ人材の育成に努める」の6項を示す。

明治38年5月9日に、最初の校訓「校訓十則」が制定される。

その後、43年4月19日から五則に改められ、さらに大正4年4月8日には3則に修正となり、昭和48年から現在の校訓「誠実・高潔・協和」が制定となる。

羽成邦男校長は「本校は明治33年に創立されて以来、その堅実な歩みは今日まで脈々と受け継がれ、本年度1999年を迎えました。この間、卒業生は、政治・経済・文化・学術・スポーツなどあらゆる分野に渡り、全国各地は勿論のこと、海外にも活動の場を広げ、目覚ましい活躍と貢献をされています。昨年度、茨城県教育委員会は、県立高等学校改革プランの基本プランを策定し、併設型中高一貫教育校及び中等教育学校を増設することとしました。それに伴い、本校も2020年4月に中学校を開校し、中高一貫校として新たな

T (Assistant Language Teacher) が常駐し、ネイティブな英語での交流や質問ができる。1・2年生はALTとの授業が毎週1回組まれている。ALTの授業内容は、ミニディベート活動やプレゼンテーション練習などが中心。

全員が英検を受験。英検の未取得者は1年次に英検準2級、2年次に2級をそれぞれ受験する。英語でのプレゼンテーション能力を向上させる「英語プレゼンテーション講座」もある。外部から専門の講師を招いてワークショップを年2回実施している。

ハワイ島研修は、ハワイ島がもつ独自の自然に注目、「生態学」・「地質学」・「天文学」の各分野をフィールドワークを中心としたプログラムを実践し、研修内容を深める。レインボー国際交流もある。

歴史を刻むことになりました。30年続いた平成の時代から令和に元号も変わり新たな時代がスタートすることを背景に、本校にとっても開校以来、大きな改革の節目の年になります。その上で、これまでの歴史と伝統を継承しながらも、新たな時代のニーズに応え、「探究活動」や「国際教育」、「科学教育」等の教育活動を推進して参ります。また、定時制においても、県教育委員会の「キャリア・サポートプラン」でのキャリアセミナーを実施するなど、今後も一層のキャリア教育の充実を図っていきま」と話す。

英語でサイエンスは、ALTと理科教師のコラボで、全て英語で説明する科学実験を、年に2回ほど実施している。

2期目のSSHは「問う力」を共通指針としたくまの科学系人材の育成をテーマに掲げる。本校の培ってきた教育資産を継承発展させつつ、様々な探究活動を協働的に行うことを通して、たくましい科学系人材を育成する。そのため全校体制でカリキュラム研究開発を行っている。

竜ヶ崎一高のグローバル教育の取り組み



白幡英語や英検全員受験、オーストラリア研修、英語プレゼンテーション講座、ハワイ島研修、レインボー国際交流、英語でサイエンスなど「竜ヶ崎一高のグローバル教育の取り組み」がある。

「白幡同窓会」は母校を応援

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校同窓会「白幡同窓会」(染谷信洋会長)は母校を応援する。活動内容をWEBや竜ヶ崎一高白幡同窓会会報「白幡」で公開する。総会は毎年4月に母校で開催している。

当企画は、(株)コミュニケーションズが独自に企画、取材、編集したものです。

広告

竜ヶ崎一高白幡同窓会

会長 染谷 信洋

「石段登る六十余一足」ことに踏みかため心をきたえ身を練りて「私の好きな校歌の五番です。まさに文武両道の神髄を言い得ています。

一九〇〇年の創立以来今に至るまで、この精神は脈々と流れています。野球部は北関東三県で初めて甲子園出場を果たし、これまでに春夏十回出場しています。あるいは地震の多い日本でも高層建築は可能であるとして霞が関ビル建設で証明した武蔵清

博士等、各界で活躍した先輩を多数輩出しています。来年は東京オリピックが開催されますが、前回一九六四年の東京オリピックで、柔道中量級で金メダルを獲得した岡野功氏も本校の卒業生です。これまでに約二万六千名の卒業生を数えています。私もその一人であることに誇りをもっています。来年は創立百二十周年、白幡同窓会一同皆で母校を応援していきます。

